

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

石狩PRIDE（愛着×誇り×幸せな暮らし）向上プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道石狩市

3 地域再生計画の区域

北海道石狩市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

○共通する街の課題

【人材の市外への流出】

・本市は札幌市のベッドタウンとして発展してきたが、石狩湾新港の工業地帯の発展により、産業の街としても発展してきた。

*現在操業企業650社以上

・夜間人口より昼間人口が多く働く場所も確保できているが、本市には、大学は女子大一校のみで、進学を機に若者が市外へ転出するのは避けられない現状がある。市全体の人口増減等と比較しても若年層の転出が顕著である。

*RESASに基づく昼間人口と夜間人口

2015年 昼間人口/60,459人 夜間人口/57,436人

*RESASに基づく人口増減数

2000年/167人 2005年/12人 2010年/-242人 2015年/-154人

*RESASに基づく社会増減数

2000年/97人 2005年/48人 2010年/-73人 2015年/138人

*RESASに基づく年代別人口の比較（15～19歳→20～24歳）

2000→2005年/-940人 2005→2010年/-745人 2010→2015年/-733人

・全体の転出先に比べて20代は同一の生活圏である札幌市北区への転出が目立つ。

*RESASに基づく転出先

全体 1位 札幌市中央区 2位 札幌市南区 3位 札幌市白石区

20代男 1位 札幌市南区 2位 札幌市北区 3位 札幌市白石区

20代女 1位 札幌市北区 2位 札幌市白石区 3位 札幌市中央区

・市民アンケートでも若年層の本市に住み続けたいと回答した割合は全体平均と比べて低い状況となっている。市内に戻って来たいと思えるよう、若い世代の活躍の場の創出やまちの魅力、暮らす人々の誇りや愛着の醸成をさらに進めていく必要がある。

*市民アンケートで「住み続けたい」「一時的に離れても戻ってきて住みたい」と回答した割合の合計

H30	全体/67.2%	10代男/57.2%	10代女/66.6%	20代男/45.5%	20代女/56%
R1	全体/65%	10代男/40%	10代女/45%	20代男/60%	20代女/46.7%
R2	全体/66.1%	10代男/20%	10代女/68.1%	20代男/57.2%	20代女/50.1%

*市民アンケートで石狩市が「好き」「どちらかといえば好き」と回答した割合の合計

H30	全体/84.8%	10代男/71.5%	10代女/83.4%	20代男/54.6%	20代女/76%
R1	全体/75.8%	10代男/80%	10代女/80%	20代男/80%	20代女/86.7%
R2	全体/80.6%	10代男/73.3%	10代女/100%	20代男/95.2%	20代女/81.3%

①人のつながりが街の愛着につながるまちづくり

・市民アンケートをクロス集計すると、地域の集まりに参加している人は本市に住み続けたいと回答した人の割合が8割を超え、参加したいができない、参加したくないと回答した人と比べて著しく高くなっている。地域との関わりは、居住者の定着に効果が見込めるが、現在、参加している人以外への関わりが不足している。

*令和2年度の市民アンケート

地域の集まりに「参加している」と回答した割合 9.1%

地域の集まりに「参加したいができない」と回答した割合 25.1%

地域の集まりに「参加したくない」と回答した割合 43.9%

地域の集まりへの「参加している」と回答し、「住み続けたい」「一時的に離れても戻ってきて住みたい」と回答した割合 83.5%

地域の集まりへの「参加したいができない」と回答し、「住み続けたい」「一時的に離れても戻ってきて住みたい」と回答した割合 68.5%

地域の集まりへの「参加したくない」と回答し、「住み続けたい」「一時的に離れても戻ってきて住みたい」と回答した割合 57.1%

*令和2年度の市民アンケート

どのような地域の集まりに参加している（参加したい）と思うか

1位/趣味に関する集まり 50.2% 2位/地域のイベント 37.1% 3位/町内会の活動 33.7%

4位/スポーツの集まり 31.6% 5位/ボランティア活動 29.6%

・文化活動やスポーツ活動について、活動のベースが出来ているが、固定化されたコミュニティの中で行われているものが多く、市内に居住していたが新しく活動を行いたい人や転入者は参加したいと考えていても一体的に情報を収集する手段が無く、参加へのハードルが高い。

・現在活動している団体についても、総合体育館や文化センターが本市にはないため、活動を発表する場が不足しており、発表は市外で行っている団体も多く、固定化されたコミュニティでの活動であることから活動発表を見た人からコミュニティが広がることも難しい。

・ソフトボール競技を市民のスポーツとして指定し、4面のグラウンドがある施設を有しているが、中学生の競技人口も減っており、環境を十分に活かしきれていない。

②街の魅力が街の誇りとなるまちづくり

・様々な機関が発表する自治体の住みやすさや魅力度について、本市は近隣自治体より低く、本市の魅力を十分に伝えられていない。

・平成17年の3市村で合併後は、旧自治体ごとの魅力や農林水産や観光など、それぞれの分野で魅力を発信に留まるものとなっており、個々の魅力をまとめて発信する仕組みが無い。

・観光資源については、コロナ禍において全体的な入込数は減少しているが、キャンプ場等はコロナ禍以上の入込を記録するなど、今後、活用することで街の特色となる可能性があるが、魅力発信のツールが不足している。

*キャンプ場入込数

H30/4,930人 R1/8,453人 R2/15,608人

・本市で最も知名度があるのは、本市発祥の石狩鍋であるが、市民アンケートでは、街の魅力アップのために活用したほうが良い地域資源としては3位であり、市民が考える地域資源を十分に活用できていない。

*令和2年度の市民アンケート

街の魅力アップのために活用したほうが良い地域資源の上位3つ

1位/「農水産物（米、野菜、鮭、ホタテなど）」45.1% 2位/「自然（海、山、森林、花など）」44.8%

3位/「食（石狩鍋、鮭醤油ラーメンなど）」33.1%

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

<背景>

【本市の人口の状況】

・札幌市のベッドタウンとして昭和40年代に急激に人口が増加し、平成19年をピークに人口減少が始まっているが、近年は転入超過で社会増となっている。一方、本市は隣接する札幌市との間での人口流動が約6割を占めており、札幌市との間では若干の転出超過の傾向にある。

【まちの特色】

・現在本市に定着している市民は昭和40年代以降の定着者が8割以上を占めているが、新たに本市に定着した市民も一体となって、明治時代に発祥した本市を代表する郷土料理の石狩鍋を定着させている。

・昭和55年全道中学校体育大会・第8回全道中学校女子ソフトボール大会開催や、平成元年に行われた「はまなす国体」の開催を契機として、ソフトボール競技を市民のスポーツとして指定するなど、新しい地域の特色も生まれた。

【これからのまちづくり】

・札幌市に隣接する立地状況から本市は、現在でも人口流動が多く、本市への定着が課題である。石狩鍋の定着には、市民により形成されたコミュニティに寄るところが大きかったことから、本市への転入者等の定着にも、様々なコミュニティへの参加を通じ、人のつながりを生むような事業が必要である。

・市民討議会や総合計画策定審議会などにおいて、本市への愛着を持つ一方で、「石狩出身と堂々と言えない」「鮭以外にも名物があるが自慢できない」といった意見が出されており、本市に自慢できる街の顔をつくることが期待されている。

<目指す将来像>

【第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略において考える目指すまちの姿】

- ・「創造」「絆」「環境」の3つを柱としている。
- ・「創造」・・・歴史・文化が市民に脈々と受け継がれ、地域への愛着につながり、市民が新しい産業や魅力、価値を創造するまちを目指す。
- ・「絆」・・・地域で暮らすいろんな世代の人が、互いに支えあいながら、みんなが安心して幸せに暮らすことができる絆や人のつながりを大切にするまちを目指す。
- ・「環境」・・・優れた資源を有効に活用し、市民の暮らし・学び、産業、低炭素などの豊かなライフスタイルや多様性を支える環境があるまちを目指す。
- ・交付金対象事業ではこの3つの柱の実現に向け、下記の2つの事業項目を横断的に連携しながら事業を実施する。

①人のつながりが街の愛着につながるまちづくり

・趣味やスポーツ、芸術、文化活動、自己の能力開発など市民のライフスタイルや日々の暮らしを豊かで楽しいものにしたいという多種多様な欲求に対応可能なまちづくりを展開し、そういった活動を通じて今まで地域で活動を行っていなかった人や転入者に対して地域のコミュニティへの繋がりを促進し、人とのつながりから地域への愛着を醸成し、定住人口の持続や新たな居住者の定着を図る。

②街の魅力が街の誇りとなるまちづくり

・地域資源やまちの特色・個性を活かした街の自慢となる特色を作り、その魅力を高め、市民の街への誇りや愛着を醸成するとともに、まちに賑わいをつくり、定住人口の持続や新たな居住者を誘導する。

【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	2022年度 増加分 (1年目)	2023年度 増加分 (2年目)	2024年度 増加分 (3年目)	2025年度 増加分 (4年目)	2026年度 増加分 (5年目)	2027年度 増加分 (6年目)	K P I 増加分 の累計
K P I ①	0.00	25.00	25.00	25.00	-	-	-	75.00
K P I ②	2,578.00	250.00	250.00	250.00	-	-	-	750.00
K P I ③	66.00	5.00	5.00	5.00	-	-	-	15.00
K P I ④	0.00	0.00	100,000.00	100,000.00	-	-	-	200,000.00

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進タイプ（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

石狩PRIDE（愛着×誇り×幸せな暮らし）向上プロジェクト

③ 事業の内容

①人のつながりが街の愛着につながる街づくり

- ・今まで地域と関わりが無かった人に向けた、地域コミュニティとの関わり機会となる、街の歴史、芸術文化、スポーツ、自然といった学びの輪が広がる講座を開催し、人のつながりを生み出す。また、今まで個々の活動として発信されていた内容が、活動に参加したことが無い人も容易に情報収集できるよう一体的な発信の仕組みをつくる。
- ・地域コミュニティの活動について、地域内での活動発表の場を確保し、地域コミュニティの活性化と活性化による新たな人の繋がりを創出する。
- ・人口流動の多い本市の歴史が次世代にも伝えていけるよう、市民が主体となって行う、歴史研究について、市民同士の繋がりを生む活動に対して支援を行う。
- ・ソフトボール競技が活発に行える環境を活かし、国内トップ選手との交流イベントを開催し、市内の競技人口の増加を図る。

②街の魅力が街の誇りとなる街づくり

- ・街の魅力を一体的に市民（特に市外への流出が多い若い世代）へ伝えるため、デジタルコンテンツを作成し、魅力発信を行う。また、市民が魅力と考えている地域資源を活用したイベントを開催する。
- ・観光資源を効果的に活用するため、地域資源を活用し魅力を発信している団体と協働で事業を行う。
- ・自然豊かな環境を観光資源とし、魅力を伝えるためのパンフレット等の作成や外部団体と連携し観光資源を効果的に活用していく。
- ・農水産物を街の魅力に活用するため、グリーンツーリズム事業や地産地消の推進を通じて生産者と市民の交流を促進する活動に対して支援を行う。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

文化・スポーツ事業については活動の場の提供により、市民の自主的な取り組みを促進し、事業収入による自立化を図る。
街の魅力となる特色づくりは、市の一般財源確保により継続していく。
企業に対して企業版ふるさと納税の働きかけを行い事業の継続を図る。

【官民協働】

人のつながり創出するため、市は地域と関わりを持っていない人に向け、イベント等関わり
の入口となる事業と地域コミュニティの可視化を行い、民間事業者は地域コミュニティの活
性化や活動情報の発信を行う。
また、地域資源の活用について民間事業者も共に検討することで、より魅力的な資源活用につ
なげ、市は様々な民間事業者と協力することで面的な魅力発信を行う。

【地域間連携】

さっぽろ連携中枢都市圏において、圏域の各自治体がそれぞれの地域特色を活かした魅力を
向上することで圏域全体の経済成長や快適な暮らしの向上が図られる。本市も地域資源を活
かした事業を行うことで圏域の魅力向上に寄与するとともに、比較対照があることで本市の
魅力をより効果的に発信することができる。また、市単独で魅力をPRするよりも多くの方に
市の魅力を伝える機会を得ることが出来る。

【政策間連携】

地域コミュニティを活性化することで、コミュニティの持続を促すとともに、地域資源を活用し観光資源の魅力を向上させ関係人口の増加と自慢となる特色をつくることにより街への愛着を醸成する。街へ愛着をもった市民が活性化した地域コミュニティとの関わりをもつことで街への定着を促進する。

また、交付金事業のデジタルコンテンツを活用することで連携を強化する。

【デジタル社会の形成への寄与】

取組①

地域の魅力発信のためデジタルマップから街の情報を取得できるコンテンツを作成し、データ分析機能を活用し今後の施策に役立てるほか、デジタルマップに機能を追加し、観光パンフレットとの連携や位置情報を利用した周遊観光事業の実施、地域コミュニティの情報発信等、市民が容易に街の最新情報を手に入れるツールとする。

理由①

デジタルマップを利用することでマップ上に史跡情報の掲載や店舗情報の掲載、オンラインによる街の散策を可能とし、オンライン観光による街への観光意欲の高揚や、実際街へ訪れた際はスマートフォンのGPS機能を使ったスタンプラリー等、生活に密着した内容についてデジタル技術を活用することにより、市民へデジタル化の浸透や理解を促し、今後のデジタル技術と生活が密接に連携する社会へ向けた基盤とする。

取組②

該当なし。

理由②

取組③

該当なし。

理由③

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証時期】

毎年度 7 月

【検証方法】

産学金労言の関係者及び住民組織代表者で構成する「総合戦略推進懇話会」において、本事業の効果検証や点検・評価作業を実施する。

【外部組織の参画者】

【産】 産業界関係者 5名程度

【学】 学識経験者 2名程度

【金】 市内に立地している金融機関事業所代表者 3名程度

【労】 労働団体関係者 1名程度

【言】 メディア関係者 1名程度

【住民組織】 住民組織の関係者 3名程度

【検証結果の公表の方法】

ホームページで公表

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 105,252 千円

⑧ 事業実施期間

2022年4月1日 から 2025 年 3 月 31 日 まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 協働のまちづくり事業

ア 事業概要

花川北コミュニティセンター内に設置している石狩市市民活動情報センターのレイアウトを変更し、市民活動の促進と情報発信を強化することで、市民主体のまちづくりを推進する。

イ 事業実施主体

石狩市

ウ 事業実施期間

2022 年 4 月 1 日 から 2023 年 3 月 31 日 まで

(2) 海辺の魅力創造推進事業

ア 事業概要

市内3箇所の公設海水浴場について、手ぶらでBBQやキッズパーク等のアクティビティの拡充やアウトドア車椅子の配備等によるユニバーサルデザイン化の推進を行う。

イ 事業実施主体

石狩市

ウ 事業実施期間

2022年4月1日から2025年3月31日まで

(3) 結婚新生活支援補助事業

ア 事業概要

新生活に係る経費を支援することで婚姻に伴う経済的負担を軽減することを目的として、新規に婚姻した世帯を対象に住居費、引越費用及びリフォーム費用の一部を助成。

イ 事業実施主体

石狩市

ウ 事業実施期間

2022年4月1日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から 2025年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、5-2の⑥の【検証時期】に7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。